

## 令和元年度山形県農業普及活動外部評価結果について

### 1 普及指導活動の体制について（組織・人員体制、普及指導員の資質向上の取組み等）

#### ①評価点

- ・プロジェクト方式の普及方式が理解しやすく、展開状況の見える化にも優れている。
- ・課題に沿ったプロジェクトが設定されており、体制や配置も密でありよい。

#### ②提案・意見

- ・I o tやA I、ドローンや無人操作農業機械などに関するプロジェクトが欲しい。
- ・プロジェクトの「横断的」な情報共有や取組みなどができる体制に進化できると良い。

#### ③意見を受けての改善点

- ・スマート農業の推進については、農林水産省でも普及事業の重点項目に掲げており、本県でも各地で取り組みを進めてきた。県内各地で技術伝承の展示ほを設置し、民間企業、J A等と一体になり、新技術の開発・実証・普及指導活動に取り組んでいく。
- ・各プロジェクトにおいては、課題毎に関係機関によるプロジェクトチームを編成しチーム会議開催により情報共有を図っている。引き続き、機会を捉えて関係者との情報交換を密に行うとともに、他地域とも連携を強化し、横断的な取組みとなるよう普及指導活動を行っていく。

### 2 普及指導計画について

【評価】 A：優れている B：妥当である C：見直しが必要

#### (1) りんご黒星病の総合的な防除対策の普及推進

【A：4名 B：2名】

#### ①評価点

- ・りんご農家の緊急課題である黒星病の防除対策を設定した点を評価する。
- ・越冬菌密度の抑制や4月上旬から6月中旬防除徹底により、栽培前半の発生抑制に効果を上げた点を評価

#### ②提案・意見

- ・さくらんぼの収穫期にりんごの防除と労力が競合するため、防除委託は実現できないか。作業委託・アルバイトなどを活用し、繁忙期を乗り切るための「仕組みづくり」を考えても良いのではないか。
- ・地域が一体となった防除対策の継続により、一層の成果が上がることを期待する。

#### ③意見を受けての改善点

- ・さくらんぼの収穫期は、地域の労働力のほとんどが収穫・出荷作業などに向けられるため、りんごの防除委託を地域内で確保することは難しいと思うが、他産地の取組み事例などを情報収集しながら、防除委託の「仕組みづくり」について検討する。

## (2) 品質・食味の高位安定化による村山地域産米の評価向上 【A：5名、B：1名】

### ①評価点

- ・「つや姫」「雪若丸」の先進的な高品位産地化を、特にリモートセンシングの導入で実現する課題の設定を評価
- ・H30年度の実績を反省しR1年度は細やかな栽培講習会で技術が向上し、また現場に毎日足を運ぶなどの熱意で収量の増加がみられたことは良い。

### ②提案・意見

- ・栽培地の地力増進に向けた堆肥施用などの方策は取れなかったのか。
- ・リモートセンシング技術による施肥状況把握と追肥判断は、今後の農業において大いに活用が期待される技術だと聞いている。ぜひ、このような一定の集積のある地域において生産者の合意をとりつつ、継続使用できるように働きかけていっていただければと思う。

### ③意見を受けての改善点

- ・発酵鶏糞及び土壌改良資材を継続的に施用し、土壌改良を進めていく。
- ・リモートセンシング技術は実証研究段階にあるものの、生産者からも高評価が得られている。導入コストについては、販売単価が高い「つや姫」での利用は理解が得られやすいと考えるので、費用対効果を示しながら実用化を働きかけていく。

## (3) 地域を牽引する競争力の高い農業のトップランナーの育成 【A：2名、B：4名】

### ①評価点

- ・地域をリードするトップランナーやスーパートップランナー育成は、法人化も含め重要課題として評価する。
- ・法人またはトップランナーが新規就農者の研修場所や法人雇用就農者の受け入れになるように期待する。

### ②提案・意見

- ・アグリウーマン塾との融合も是非実現して欲しい。
- ・トップランナーの「ベストプラクティス」(優良事例)を広く次に続く人々へ紹介しアドバイスしていくことも重要

### ③意見を受けての改善点

- ・意欲的な農業者が受講してきた同塾の修了生を対象に、独自の研修会を新たに開催する等により、女性支援の面から地域農業の牽引役を育成していく。
- ・優れた経営を実践する農業法人等の優良事例を多くつくり、地域に波及させることが本計画の大きな目標。若手農業者を対象とした研修会等を開催しながら、紹介していきたい。

#### (4) 和牛肥育経営が取り組む繁殖部門の生産性向上と飼料用米の低コスト利用推進

【A：6名】

##### ①評価点

- ・肥育素牛価格の高騰もあり、和牛肥育農家の生産コスト高の改善が求められている時期に、繁殖部門の生産性向上と低コスト化の取り組みは適時性に富む。
- ・黒毛和牛の肥育経営の一大産地にあつて、繁殖から手掛ける肥育農家のコスト削減と生産性向上をテーマにした目標設定は適切

##### ②提案・意見

- ・プロジェクトチームによる繁殖部門の課題解決は、全県的に普及願いたい。県内における繁殖農業者にも支援できる体制を希望する。
- ・発情発見装置は近年各段の性能向上があると聞くので、普及を進めていただきたい。

##### ③意見を受けての改善点

- ・他普及課でも、獣医師等と連携した支援は行われているが、積極的に他普及員と意見交換し、より効果的な支援手法の波及に努めていく。
- ・その後の取りまとめにおいて、発情発見装置の導入により発情発見率が向上することが明らかとなった。この結果を管内農家にも共有し、普及に努めたい。

#### (5) 東北地域をリードするアスパラガス産地の基盤強化

【A：6名】

##### ①評価点

- ・出荷量、販売額ともに成長しており、単収の伸びも数値で示されており達成状況は順調と考える。最も評価したいのは、中核的生産者の平均単収の伸び。牽引役の方々の成功体験が次に続く生産者の方々の指標となると思う。

##### ②提案・意見

- ・産地拡大、新規栽培者の確保、技術習得、生産性向上等に期待する。
- ・中核的生産者の育成が、次の世代、若手生産者の育成に必ずつながっていくと思う。今後は、中核生産者の方々自身が「学ぶ」側から「教える」側にも立っていただくことで、よりモチベーションも向上されていくことと考える。

##### ③意見を受けての改善点

- ・令和元年からの新規栽培者が10名、面積増の栽培者が7名いる。令和2年からの新規栽培希望者もあり、元年度から取組んでいる「はじめてのアスパラガス栽培研修会」への参加を誘導しながら技術習得を支援する。
- ・また、管内西部地区の後発産地では、指導的生産者を育成して、協力して更なる栽培拡大をすすめる、最上町など先行産地でも規模拡大を働き掛けていく計画を立てている。委員の意見を活かしながら地域全体で東北をリードする産地をめざして産地基盤の強化をすすめる。

## (6) 魅力ある農産物・加工品開発による6次産業化の推進

【A：2名、B：4名】

### ①評価点

- ・多くの対象者と事業所があるなかで、絞りこみ、確実に成果を上げたことは非常に良いと思う。一つでも多くの「ベストプラクティス」(優秀事例)を作り上げ、それを目標として次なる挑戦者が挑戦する、というプラスの循環を創ることが何より大切。

### ②提案・意見

- ・売上額増加には、豊富なアイテムやメニューの改善も必要だが、売り場レイアウト、POP広告、商品宣伝、ブランド化など要因が多く、継続的な支援を願いたい。
- ・多くの生産者が小さな組織で活動されているのは地域としてもったいない。協働できることは協働し、より技術力やマーケティング力、販売力の高い企業などと連携することはできないものか。

### ③意見を受けての改善点

- ・令和元年度までの活動として、アイテム、メニューの開発改善に加え、直売所の商品配置・POP・接客サービスなどをテーマにした研修を行い指導してきている。令和2年度以降の活動でこれら改善項目のチェックリストを使った店舗運営・売り場づくりの研修会を開催しながら、販売力の強化について支援する。

## (7) 切り花ダリアの長期出荷体制の構築と高品質安定生産によるブランド力強化

【A：2名、B：3名、C：1名】

### ①評価点

- ・ハウス栽培導入による秋冬出荷、電照栽培による晩秋出荷に成果をあげた点を評価。
- ・全国でもトップクラスといわれる置賜産ダリアのブランド力強化に取り組む必要性や適時性を評価。

### ②提案・意見

- ・今後、電照栽培者が増えていく事に期待する。
- ・ブランド力向上の指標を具体的に示すことが必要。

### ③意見を受けての改善点

- ・実証圃の設置や講習会の開催等の取り組みにより、ハウス栽培導入に向けた活動をさらに強化していく。
- ・講習会での技術普及や事業等の活用推進により、電照栽培を増やす普及活動を推進する。
- ・ブランド力向上の具体的指標の一つは、単価の向上と考えております。近年は、120～130円/本で横ばいとなっており、今後もブランド化に向けた取組みを推進する。

## (8) 「雪若丸」ブランド確立と低コスト技術導入の推進による米産地堅持

【A：2名、B：4名】

### ①評価点

- ・ブランド確立と省力化はどちらも大切。GAPで効率化を目指すのは良いことだと思う。
- ・デビューまもない「雪若丸」のブランドを確立するため高品位安定生産を図り、GAP導入による農業経営と直播取り組みによる省力・低コスト技術の導入推進という課題の設定は適切といえる。

### ②提案・意見

- ・管内2か所の良食味、土壌還元対策の及び省力栽培の実証圃を設けたことは「見える化」であり理解しやすい。気象に左右されない生産体制が望ましい。
- ・GAP取得生産者がH30は2件、令和元年は3件。これは多いのか？

### ③意見を受けての改善点

- ・この計画は来年度最終年度。外部評価委員の方々の意見を生かし、現場の課題解決に努め、雪若丸のブランド確立およびGAP、直播の導入拡大に向けた普及活動に取り組んでいく。
- ・GAP認証について、新規の認証取得農場数を目標としている。過年度の認証が2～3件と、数字としては小さく見えるが、新規取得農場が年々増え、順調な認証農場数の増加と考えている。

## (9) 長期継続安定出荷によるえだまめ産地のブランド力向上 【A：4名、B：2名】

### ①評価点

- ・中京地域をターゲットとしているということで、ある意味他地域との競合を避けて独自のポジションを確立させている点は大きな強み。
- ・担い手確保や育成の継続的な取り組みを期待する。

### ②提案・意見

- ・輸送コストのリスクヘッジは今後必要となってくると思われる。中京地域だけではなく、ぜひ地元を含めた全国区の「ブランド」となるべく認知度を上げる取り組みに期待したい。
- ・労働力確保が課題となってくる。

### ③意見を受けての改善点

- ・良食味で高品質なえだまめを長期継続安定出荷することでブランド力を向上させていく。販路は、JAと連携を図りながら更なる開拓を検討する。
- ・労働力不足を補うために、共同作業組織育成に向けた支援をしていく。

**(10) 新規就農者の技術習得と交流促進による就農定着 【A : 3名 B : 3名】**

**①評価点**

- ・実践講座の受講者も新規就農者数と比較してもかなりの割合で参加しており、延べ参加者数も多い。認定農業者も着実に育成されており、実施初年度としては成果をしっかりと挙げている。
- ・集団支援、個別支援、と重層的な支援がなされているのは素晴らしい。

**②提案・意見**

- ・どれだけ就農しても自立できたかを確認するまでが大事かと考える。
- ・今後は、中間評価がB判定だったという農家の方への集中支援や、新規就農者における「リーダー」あるいは「ヒーロー」づくりが重要になってくると考える。

**③意見を受けての改善点**

- ・この課題では、認定新規就農者の就農定着100%を目標に掲げている。農業次世代人材投資資金(経営開始型)を受給している認定新規就農者は、受給3年目に中間評価を行うことが義務づけられているので、当課職員も中間評価の場に参加するとともに、農業経営が計画通りに進んでいない新規就農者に対しては、個別重点的に支援を行う。

**(11) 初期生育の確保と気象変動に対応した「つや姫」の高品質・良食味米の安定生産 【A : 1名、B : 5名】**

**①評価点**

- ・昨今の気象変動に対応する課題設定は、挑戦的で未来を見据えた良い課題設定である。

**②提案・意見**

- ・西村山普及課で実施したリモートセンシングの活用は出来ないか。

**③意見を受けての改善点**

- ・当該技術は、産地の食味・品質・収量を高位平準化するための、有効な手段と考える。リモートセンシング等の先進技術(スマート農業技術)を、技術対策会議、現地検討会等で紹介し、産地のグレードアップを図る活動を推進する。

**(12) 水稻育苗ハウス等を活用した「シャインマスカット」の産地づくり 【A : 5名 B : 1名】**

**①評価点**

- ・育苗期間以外は遊休施設である育苗ハウスの活用は非常に興味深く、この手法でシャインマスカットの産地づくりにチャレンジすることは素晴らしい。

- ・法人の方は年間仕事を作らなければならないので、これからも興味を持つ生産者が増えるだろう。

## ②提案・意見

- ・高品質を実現し、維持し、「シャインマスカット」の価値を落とさないこと
- ・もう少し栽培者を増やし、産地として認知されるように活動を推進してほしい。

## ③意見を受けての改善点

- ・関係機関と連携しながら、販売先へ当産地PRを行い認知向上を目指すとともに、当産地の評価や他産地情報を把握し、今後の有利販売に向けた販売戦略を検討する。
- ・水稻育苗ハウス等遊休ハウスの有効活用による産地の拡大に向け、関係機関と連携し、導入者の更なる掘起しを進めていく。
- ・農事組合法人の経営の一部門を担うことができるよう、早期成園化に向け、技術支援を行っていく。

### 3 総評

#### ①評価点

- ・現状把握がしっかりしてるので、課題の設定も分かり易く、かつ絞り込めている。支援対策も明確である。
- ・農家に寄り添い、課題解決に真摯に取り組まれている。また、生産者の方々が熱心に取り組まれていることで、山形県の農産物を作るレベルの高さを実感した。

#### ②提案・意見

- ・農業高校生の関心が高いのは、IoT、ドローン、AI。機械を導入すれば生産性向上や農産物の品質向上にすぐプラスになるわけではないが、今後の担い手づくりには必要なツールではないか。
- ・ブランド力向上＝差別化を図ること。ターゲットとする市場、相手を決めて、自らのポジショニングが大事。常に消費者の意見を聞くことが必要。客観視できるスタンスが必要。
- ・トップランナー、スーパートップランナー等、地域農業の牽引役を育成することは重要。そのリーダーを点から面（地域ネットワーク化）への広がりがあるといい。

#### ③意見を受けての改善点

- ・委員の皆様からいただいた貴重な意見を、次年度の普及計画に反映し、農家視点、地域に密着した産地育成及び担い手の育成を進めていく。
- また、関係機関との連携を強め、農業振興を図っていく。